

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991000118		
法人名	医療法人社団 湘風会		
事業所名	グループホーム ピオニー		
所在地	栃木県大田原市山の手2-13-31		
自己評価作成日	平成28年9月1日	評価結果市町村受理日	平成28年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	平成28年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり、いっしょに、楽しみながら」を事業所理念とし、入居者一人ひとりのペースやその人らしさを大切にしながら楽しみを持って共同生活を送れるような支援を心掛けています。季節の行事を通して時候の移り変わりを感じていただけるような外出支援や、事業所の秋祭り「湘風祭」、地区の文化祭等への作品出展等を通して、地域との関係作りにも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は城下町の一角に位置し、商店、住宅に囲まれ、付近には寺や神社がある。元料亭を改修して1階が小規模多機能型居宅介護施設、2階がグループホームになっている。庭にシンボルツリーのみもとハッサクの木があり、季節毎に変化する美しい姿は利用者を楽しませている。「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」を事業所の理念として身近に掲げ職員は支援の支えにしている。日常生活では季節感を大切にしており、利用者自身が季節の花を飾ったり、食事や外出の時にも季節を感じてもらえるよう支援している。地域の中で大きな祭りが開催され、近くの河川敷で行われる花火大会を居室の窓から眺めることができ、利用者の楽しみとなっている。地域の文化祭に利用者の作品を出品し職員も実行委員になったり、地域の方にも防災訓練や事業所の秋祭り「湘風祭」へ参加してもらうなど、地域との交流も活発である。毎月の利用料の支払いを兼ねて家族が利用者に会いに来ることで、来てくれてうれしいという関係が家族と持続できるように支援している。また、計画作成担当者は家族に情報をよく発信し、受診にも同行して、家族、事業所、医療機関と情報を共有し信頼関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」を事業所理念とし、職員がそれを共有できるよう玄関前に掲示している。また、今年4月には勉強会で、事業所理念を確認し、サービスの実践につなげている。	理念について職員全員が勉強会で確認し、フロアの壁の見やすい所にカラフルな文字で大きく「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」「のんびり」を加えた4つの言葉を掲示し、常に理念を意識した支援をこころがけている。利用者が出来る事はゆっくりでも時々笑いを交えながら声をかけて、一緒に楽しみながら行うことを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板を通して情報を得ている。地域の文化祭に参加したり、事業所の秋祭り「湘風祭」への参加を地域住民に呼びかけ参加していただいている。また、年に2回行う消防訓練の際、近隣住民の協力を得ている。	毎年秋に行われる「湘風祭」ではチラシを回覧版で回してもらう他、近所の住民には手渡しで配布し参加してもらうなどして年々事業所の認知度が上がっている。地域のお祭りや文化祭にも積極的に出かけていき、文化祭では入居者の作品を出展し職員が実行委員になるなどして地域の一員として活動している。その他語り部やオカリナ、ケーナ、フラダンス、日舞、声楽、カラオケなど様々なボランティアの訪問があり利用者を楽しませている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一度、施設をオープンにした秋祭りを開催し、地域の方々に施設の内部や認知症の方への支援を見ていただき、理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では①入居者数・介護度・年齢・地域②利用状況③活動実績・行事報告行っている。特に、地域の行事については事前に詳しい日程を教えてもらったり、参加後に写真等も見てもらい意見をいただいたりして、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議には市の職員や地域包括支援センター(地域包括)職員、地域の自治会長や民生委員、利用者家族の代表などが参加し様々な議題が出され話し合われている。家族からは最近起きた事件を心配する声が聞かれ、緊急時の対応方法や利用者の身の安全を第一に守ることなどを説明し、今後防犯スプレーなども検討していることなどを報告した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険事業計画や実地指導、運営推進会議等を通して、運営の指導を得ている。また、事業所連絡会やケアマネ連絡会でも、市との連携を図っている。	ケアマネ連絡協議会や事業所連絡会などを通じて最新の情報を得たり、医療研修会開催等の情報を得て介護職員が研修会に参加するなどしてケアサービス向上につなげている。地域包括から独居老人や徘徊者の見守りの協力依頼があり、時々様子を見に行き地域包括へ報告するなどし協力関係を築いている。	

グループホーム ピオニー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルを通して身体拘束による弊害を理解するとともに、個人尊重のケア・見守り・声掛け・寄り添いの実施により、身体拘束のない支援に努めている。	職員は法人内合同研修会等でスピーチロックについても気を付けるよう指導を受けている。利用者に声をかける時には目線にも気を付けて本人の視界に入る位置で優しく穏やかな言葉かけを心掛けている。帰宅願望の強い利用者があるが、エレベーターのボタンを押しても利用者がすぐに乗れないように、かごは1階に置くことを習慣化し、階段への出入り口のドアは入居者の動きに気を配ることで日中は無施錠で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者及び家族との関わりを通して、虐待のサインを見逃さないよう配慮している。事業所内においても、情報の共有や交換により虐待防止に努めている。今年1月の勉強会で身体拘束の廃止及び高齢者虐待の防止の関する法律について学んだ。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう	今年2月の勉強会で日常生活自立支援事業・成年後見制度について学んだ。必要性が出た際には、学んだことを活用できるよう支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を基にグループホームの役割や制度に関することを十分に説明し、入居者が新たな生活を確立するために、本人や家族の理解・納得を得たうえで契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画見直しに当たっては「サービス担当者会議」を開催し入居者の家族に出席していただき意見や要望の把握を行っている。また、利用料金納入時や病院受診時に来所された際も話し合う時間を作っている。また、苦情処理担当を設けて、いつでも対応できるよう努めている。	計画作成担当者が利用者についての情報を家族によく発信し、情報を共有し信頼関係を得ていることから、家族からの意見や要望はほとんど無いが、利用料金の支払いに毎月来ることが負担になっている家族には、口座振替も行って柔軟に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の管理者ケアマネ会議、職員定例会議を通して、意見や提案を聞く機会を設けている。	職員は申し送りや定例会議の時などに、日々の小さいなことでも意見を出し合い、施設設備の修繕を依頼したりしている。最近では夜勤の出来る職員が少なくなり職員の負担が増えたことから、夜勤の出来る職員を増やしてほしいとの要望が出され、勤務体系を見直し夜勤可能な職員を雇ったという経緯がある。	

グループホーム ピオニー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員がやりがいを感じ、向上心を持って働けるよう、個々の能力や実績、勤務状況を考慮したうえで、環境や条件整備に努めている。勤務表は個人の要望をできるだけ取り入れて作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の事業所内研修の実施したり、外部研修の通知を回覧して周知を図り参加する機会を作ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のサービス事業所連絡会やケアマネ連絡会をととして、同業者との交流・情報交換を行っている。また、今年3月に同法人栃木支部の職員を対象に、合同研修を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、本人や家族に会って聞き取りを行い、本人の状態や要望等をうかがって、状況にあった支援ができるよう努めている。職員は本人の思いを傾聴することを心掛け、良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や契約時に家族との面会を行い、不安や要望を聞く機会を作り、関係づくりに努めている。また、入居後も家族の来訪時に現況をお知らせし、家族の意向や思いに耳を傾け、安心していただけるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時に本人・家族の思いや意向の聞き役となり、共に解決策を見い出せるよう話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活の中で得意とされていた物(料理・編み物・縫物等)を教えていただくなど、人生の先輩として尊重し、話に耳を傾け、共に支え合う関係を築いていけるよう努めている。		

グループホーム ピオニー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時に現況を報告したり、毎月の請求書と一緒に写真入りの手紙を送ることで本人の様子をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の家族でも月1回は利用料支払いを兼ねて来所していただいている。家族がゆっくり気兼ねしないで面会できるように支援している。また、かかりつけ医受診の継続など身近な環境で馴染みの人や場所との関係継続に努めている。	利用者は、家族と美術館巡りに行く人や、散髪に行く人、地元の敬老会に参加する人、実家に草むしりに行く人、お彼岸に墓参りに行く人など様々で、職員は今までの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。面会時間は特に設定しておらず、何時でも家族が来やすいような雰囲気作りをしており、孫や甥、親戚の人なども面会に来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物の片付けや食事前後の作業が共同で行えるよう支援したり、気の合う方向士が近くに座れるよう配慮している。同じ状況・環境の中で関わり合いの大切さを感じていただき、職員が適度に介入することで、孤立せずに交流が深まるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後や退居後も、近くに行った際には訪問し様子を見に行くこともある。退居後も必要に応じて相談や支援に努めており、再入居に至ったケースもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活から、本人の表情や仕草などを観察し、興味の対象、好き嫌いや思いなどを探り、心地よさが何かを見い出すように心掛けている。	利用者の今までの生活歴や行動様式を参考に、職員と一対一で入浴の時の時や、どこかに外出した時の利用者の表情や日頃の言動と行動などから一人ひとりの意向を把握して、関心のある趣味やレクリエーション、外出や食事のメニュー、生活の仕方などに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には必ず、生活歴、得意だったことやこだわり、さらには住まいの間取りなどを把握して、入居後の生活に安心感をもてるよう心掛けている。		

グループホーム ピオニー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが、心身の状態や有する能力等の観察に努め、細かな変化の状況も共有するよう申し送りを充実している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がその人らしく穏やかに暮らす為の課題とケアのあり方について、本人・家族・職員と話し合うためのサービス担当者会議や定例会議でケアカンファレンスを行っている。そして、それぞれの思いや意見が反映されるよう介護計画を作成している。	計画作成担当者は日頃から職員全員に利用者の様子を聞き取り、申し送りや定例会での職員の意見や家族との会話の中でケアについての課題を把握し、介護職員や家族を含めたサービス担当者会議で出た意見や要望等を参考に、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別経過記録や日報、申し送りノート等によって情報が共有され、日々のケアの修正や介護計画の見直しへの蓄積となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力を得て、デパートや美容院に出掛けたり、外食や住み慣れた自宅への立ち寄り(草むしり)などで気分転換を図っている。また、地域の祭りや敬老会・七夕・展覧会、スーパーへ食材買出しに出掛けたり、一階のみずばしようにボランティア行事やお茶飲みに立ち寄り交流を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支える地域資源の把握・開拓までは至っていないが、地域のボランティア、出張理容師などとの交流や、お祭り、文化祭などに参加することで、楽しみのある生活が送れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医に継続して診ていただいている。診察時の付き添いは基本的には家族が行っているが、看護師の資格を持つ計画作成担当者もできるだけ同行し状態を報告するなど主治医との連携を深めている。受診に同行できない場合は事前に病院に電話で報告したり、当日手紙を渡したりして、確実に主治医に入居者の状態が伝わるようにしている。	通院困難になった利用者は家族の了解をもらって往診のできる医者に変更し、往診時には家族に立ち合ってもらっている。看護師資格を持つ計画作成担当者は受診に積極的に同行し、主治医、家族、事業所で情報を共有し連携を深めている。利用者、家族は健康管理や医療面で安心して過ごすことが出来ている。	

グループホーム ピオニー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業者内に専従の看護師はいないが、看護師の資格を持つ介護支援専門員のアドバイスにより、適切な支援ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては、かかりつけ医と連携し紹介状などの入手、家族への状況説明等を行い、不安の除去に努めている。入院してからも状態把握や病院関係者との情報交換や相談のため面会し関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化や終末期の医療ニーズの高くなった場合の事業所として対応、どのような状態になるまで入居していただけるか、また、支援方法などについて説明し話し合っている。日頃から入居者の状態については家族にお知らせし、情報を共有して状態の悪化、医療依存度が高くなってきた場合も早めに家族に報告している。	看取りについての法人全体での研修に参加している。往診が可能になったことと計画作成担当者が看護師の資格を有することもあり、重度化した利用者を亡くなる直前まで支援した経験がある。この経験を看取りへの第一歩にしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを常に確認できる場所に掲示している。また、定期的な救急救命講習の受講や救急隊に渡す利用者情報を準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、地域住民も交えた防災訓練を実施し、消防署職員から指導・助言をいただいている。6月には、日中のピオニーでの出火を想定した訓練を行った。	消防署員、地域住民も参加して避難訓練を行っている。避難した利用者の見守りを地域住民にお願いしている。非常時緊急時のため、利用者の持病や薬等の情報を入れたリュックをすぐ持ち出せるよう準備し居間に置いてある。水、ビスケット、米、ストーブ等を備蓄している。	事業所が2階にあることから、利用者を2階から下へ避難させなければならないことや、夜間の一人勤務体制時の災害を想定した訓練を実施することを望む。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の守秘義務を契約書に明記し、契約時に説明している。また、接遇マニュアルの作成や法人のプライバシー保護規定を玄関に掲示し、利用者・家族の人権やプライバシーにも配慮しながら支援に努めている。	接遇マニュアルを作成し毎年研修を行うなど、利用者の尊重は事業所の重要な研修課題になっている。利用者を名字で呼ぶ、くだけすぎたりよそよそしくならない言葉掛け、目線が上からにならないことを意識して、利用者を尊重した支援ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いに配慮し、出来る限り要望に沿うことや、自己表現しやすい関係を築けるよう、日々の関わりを大切にしている。		

グループホーム ピオニー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りその人らしい生活が送れるよう、一人ひとりのペースを大切に、少しでも多くの楽しみが得られるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気候に合わせて本人に衣類を選んでいただけるよう声掛けをしたり、爪の手入れの支援等を行い、その人らしい身だしなみやお洒落ができるよう努めている。髪の毛の長さを見ながら、ヘアカットを勧めたりもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ホワイトボードにその日の食事メニューを記載し、献立や材料の説明をしている。できる方には食後の片付けやテーブル拭き、食器拭きを行っていただいたり、一緒に食材やおやつのお買い物に出掛けて、好みのものを選んでいただいている。	朝食は職員の手作りで、昼と夕食は宅配の半調理品や近所の総菜店を利用したり、外食や利用者の好みのもを手作りしたりと食事を楽しんでもらえる工夫をしている。おやつも手作りが多い。畑で採れたり家族からいただく野菜も利用して、季節を味わってもらっている。食事は利用者それぞれのペースですすめられ、様子を見ながら職員がさりげなく介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往歴を考慮しながら、個々の摂取量に配慮した盛り付けを行っている。食事量と水分量は毎日チェック表に記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの残存能力に合わせて、食後のハブラシあるいは義歯洗浄の支援を行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力オムツを使用しないことを基本とし、生活パターンと残存機能に応じたトイレ誘導や排泄用品の使用に努めている。	布パンツ、リハビリパンツとパッド使用の利用者がいるが、介助が必要な場合も含め全員が昼夜共にトイレで排泄ができています。介助が必要な利用者が夜間起き上がるとベッドに付けられた鈴が鳴るようになっており、転倒防止とスムーズな介助が行えるよう工夫し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表で排泄状況を把握し、乳製品や食物繊維の多い物を摂っていただいたり、体操や歩行運動を行って体を動かすことで便秘の予防・対応に努めている。		



グループホーム ピオニー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1対1の個浴でゆっくりと入浴していただいている。季節によってははず湯や菖蒲湯、入浴剤を使うなどして入浴を楽しんでいただく工夫をしている。	毎日3人ずつ午前中に家庭サイズの風呂場で入浴している。一人の職員が衣服の着脱と入浴を支援し、浴室への段差も手すりや介助で上り下りができており、滑り止めマットも取り付けられ、安心して入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに合わせて臨機応変に対応している。日中の短時間での朝寝や昼寝、室温調整や湯たんぽの使用、照明加減の配慮などで睡眠環境が快適になるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を活用したり、臨時薬等の変更を申し送りノートと日報で職員が把握し、一人ひとりの状態に合った服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リビングや廊下のモップ掛け、洗濯物たたみ・干し、食事の後片付け、食器拭き等のそれぞれの生活歴や能力を活かした手伝いをしていただいたり、脳トレ、体操や歌唱、生け花や手芸等を一人ひとりの出来る範囲で楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材やおやつを買出しに職員と共に出掛けたり、洗濯物干しやゴミ出し等、気分転換に行っている。また、ドライブや外食等の行事計画を立てて季節を感じていただけるよう配慮している。家族との外出も含め、外出記録をチェックして入居者がまんべんなく出掛けられるように支援している。	花見や紅葉見物などの季節毎のドライブや外食、祭り見物、中学校での地域の文化祭、食材の買い出しの他、ゴミ出し、洗濯物干し、庭の散歩などあらゆる機会を外出と捉え、出かけた時の利用者の反応も参考に、誰もが楽しく外出できて季節を感じられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持することを制限はしていないが、現在所持を希望する方がいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に行っていないが、入居者から家族に伝えたい事などがある際は、スタッフが間に入り連絡を取ることもある。		

グループホーム ピオニー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に生活できるよう、共有部分を清潔にし、室温を調整したり、空気の入替えをしている。季節にあった歌の歌詞、切り絵やカレンダー、生け花や誕生日のポスター等を壁に貼り、季節感を感ぜられるようにしている。	玄関や廊下、居間には利用者手作りの花瓶に花を生け、居間には季節を表した大きな貼り絵や季節の歌の歌詞を貼り、季節感を大切にしている。窓から空や階下の庭の木々も見渡せ季節の移ろいが感じられる。2つの大きなテーブルと長いソファもあり、思い思いの場所で寛ぐことができる。木製の調度のせいで居間全体が家庭的で温かな雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来る限り一人ひとりの居場所や話せる場所づくりができるよう、テーブルやソファの配置に配慮している。今年からフロア南の窓際にテーブルと椅子を置いてフロアでも一人で座って外を眺めながらくつろげるようにした。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族から在宅時のベッドの位置を確認してから配置するなど、少しでも自室の間取りに近づけ環境を変えないよう配慮している。また、馴染みの物品や日用品、趣味用品を持参していただいている。写真やぬいぐるみを飾ることで安心されている方もいる。	自宅で使っていた時と同じ側から乗り下りするようにベッドを配置したり、好みに応じて床に畳を敷いたりしている。畳の部屋の利用者は自宅での習慣通り毎朝ふとんをたたみ掃除をしている。習字やぬり絵などの自分の作品、家族の写真、ポスターなどを飾っている部屋もある。部屋毎の個性を出して欲しいとそれぞれカーテンの色を変えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内を整理整頓し、床に物を置かないようにしたり、廊下や窓に手すりを設置するなどして事故防止に努めている。トイレや居室にわかりやすいよう表示を出し、出来る限り自立した生活が送れるよう支援に努めている。		